

石神井池通信

～ 令和2年度かいぼりに向けた取組のお知らせ～

都立石神井公園「かいぼり」関連プログラムを開催しました。

◆ 令和2年2月1日 13:30～15:00 「池の生き物観察会」【開催場所：ふくろう広場・石神井池】

「ふくろう広場」に集合した参加者に、まずは「当日石神井池底から採取したての泥」と「数日間乾燥させた後、再び水に戻した泥」の臭いの違いを体験してもらいました。参加者からは「採取したての泥は臭うが、乾燥させた方は臭いが少ない。」等の声があがりました。次に石神井池で捕獲したモツゴ、ゲンゴロウブナ、ブルーギル等を展示し、池の水中で生息する生き物についての説明を行いました。その後は、石神井池の周囲を散策しながらカモ類やカワウなど水鳥を観察し、見分け方や生態等について知っていただきました。



魚の展示と解説



水鳥の観察

【感想をお寄せいただきました】

- ・石神井池にたくさんの種類の鳥がいることがわかった。
- ・今後も観察会を開催して欲しい。
- ・かいぼりをするときの魚の救出作戦に参加したい。

◆ 令和2年2月9日

10:30～11:45 「池の生き物勉強会」

14:30～15:45 「池の歴史・生き物についての講演会」

【開催場所：練馬区立石神井公園ふるさと文化館】

「池の生き物勉強会」では石神井公園野鳥と自然の会・茂木勲さんから、32年間の観察活動に基づく鳥類等の増減動向が紹介されました。石神井公園は23区のなかでも自然度が高く、多くの種類のトンボやチョウが見られる、といったお話がありました。

「池の歴史・生き物についての講演会」では、上記の生き物の話に加え、石神井公園ふるさと文化館の小宮佐知子学芸員によるお話がありました。江戸時代の絵図、古い写真等のさまざまな資料を使って、江戸から近代までの石神井公園の歴史や、昭和40年代に三宝寺池の水が濁れたお話や石神井池が人工的に造られたお話などがありました。



【感想をお寄せいただきました】

- ・多くの種類の生き物がいることを初めて知った。
- ・生き物が年ごとに数が増減していることがわかった。
- ・石神井地区が当初観光地として開発されたことが興味深かった。
- ・石神井池が人工的に造られた池と知っておどろいた。



「かいぼり」とは

農作業が終わる冬にため池から水を抜き、一定期間干して、清掃、堤や水路の点検補修を行う作業を「かいぼり」と言います。

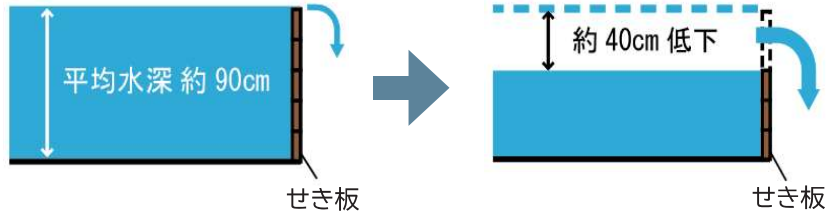
近年は公園などの池で水質改善や外来種駆除を目的に行われる例が増えています。

石神井池の水位を低下させ、護岸や排水状況の調査などを行いました

1月21日から2月7日までの間、石神井池の水位を約40cm程度低下させました。

今回の調査で平常時の水位では確認できない部分の護岸の状態も調査し、補強が必要な箇所等を確認しました。

あわせて、どのくらいの時間で池の水位が下がり、どのくらいの時間で池の水位が上がるのか等を確認しました。



今後の取組予定



東部公園緑地事務所では、令和2年度の冬に地域の皆様とともに石神井池のかいぼりを実施することを目指しています。この目標に向け、以下のような取り組みを進めていきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年度														
2020年									2021年					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>準備期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工法検討 ・ 関連機関調整 等 </div>									<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託・工事 ・ 広報・普及啓発 </div>			<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; color: white;"> <p>かいぼり 目標時期</p> </div>		

Note

石神井池のなかまたち



スズガモ (オス)

背中には白地に黒の細かいしま模様があって、灰色に見える。



キンクロハジロ (オス)

背中中は黒。後頭部に「寝ぐせ」のような羽毛がある。

スズガモはハトとカラスの中間くらいの大きさのカモです。秋から春まで日本で越冬し、多くは海で生活します。内陸部の石神井池では、この3年ほどは1羽ずつ、メスだけしか来ていませんでした。

今年の冬は、数は多くはないものの、1999年以来21年ぶりにオスも飛来しました。比較的数量が多いキンクロハジロというカモと一緒に、石神井池で見ることができましたが、オスメスとも2月中旬には姿を消してしまいました。

【情報提供：石神井公園野鳥と自然の会】